

瑞穂市コミュニティバス「みずほバス」の概要

◇運行の目的

交通空白地帯を解消し、高齢者や障がい者等の交通弱者を含めたすべての人の移動を支援する。

自動車依存を抑制し、交通渋滞の解消および環境負荷を軽減する。

◇導入の歴史

- | | |
|----------|---|
| 平成11年10月 | 当時の穂積町で本田線、牛牧線の2路線で『ほづみバス』として運行を開始。 |
| 平成15年 5月 | 穂積町と巢南町が合併。 |
| 平成16年 5月 | 『みずほバス』と名称変更し、旧巢南地域に路線を拡大。
「本田馬場線」、「牛牧十七条線」、「鷺田船木線」の3路線で運行開始。 |
| 平成17年 4月 | みずほターミナル新設。 |
| 平成22年 4月 | 「牛牧十七条線」がプラント6まで延伸して運行開始。 |
| 平成23年10月 | 岐阜バス営業路線「穂積リオワールド線」、「大野穂積線」の発着がみずほターミナルから穂積駅に変更。 |
| 平成24年 4月 | 岐阜バス営業路線「穂積リオワールド線」を「瑞穂北部線」と名称変更し、『みずほバス』の路線として運行開始。『みずほバス』は4路線体制となる。 |
| 平成25年 4月 | 『みずほバス』路線を再編し、「本田唐栗線」、「十九条古橋線」、「牛牧穂積線」の3路線で運行開始。 |
| 平成25年10月 | ICカード乗車券「アユカ (ayuca)」の運用開始。 |
| 平成26年 5月 | 『みずほバス』車両を更新。 |
| 平成27年 9月 | 岐阜バスよりバス停ベンチの寄贈を受け、13か所に設置。 |
| 平成30年 1月 | 運転免許証自主返納者への運賃支援サービスを開始。 |
| 平成30年 4月 | 『みずほバス』路線を再編し、「本田七崎線」、「馬場十七条線」、「十九条古橋線」、「牛牧穂積線」の4路線で運行開始。 |

◇運行業者

瑞穂市が岐阜乗合自動車(株)(通称：岐阜バス)と協定を締結し、瑞穂市の要請により岐阜バスが運行。

◇乗車賃等

1回100円(大人)、1回50円(小人)

※定期券・回数券はありません。

◇バスの特徴

二代目みずほバスは、市の花「アジサイ」、市の木「サクラ」の色をベースとし、花びらが風に吹かれて流れていく様子をイメージしたデザインになっています。笑顔いっぱいの「かきりん」がみなさんを目的地まで安全にエスコートします。

バスは中型2台(定員54人/台)とポンチョ2台(定員30人/台)の計4台で、

年末年始（12月29日～翌年1月3日）以外は毎日運行しています。ただし、平日ダイヤと休日ダイヤ（土・日・祝日）があります。

JR 穂積駅を基点とし、公共施設、病院、商業施設等が利用できるように幹線道路を中心に市内全域を安全に走行できる道路を路線としています。停留所は、概ね半径 300 mの円が交わらないようにバス停間隔として 600mを設けており、公安委員会とも協議のうえ、交差点から概ね 50m離すとともに、カーブ等の危険箇所を回避して設置されています。



みずほバス（中型）



みずほバス（ポンチョ）

◇主なバス利用者

朝夕は、通勤・通学のために JR 穂積駅に向かわれる方が多く利用されています。

その他の時間帯は、主にスーパーマーケットでの買い物や病院への通院、公共施設でのイベント参加等で多く利用されています。

◇運行ルート

① 本田・七崎線

- (1) 運行所要時間 54分
- (2) 運行距離 20.9km
- (3) 停留所数 35ヶ所
- (4) 1日の運行便数 左回り5本（土日祝日4本）
右回り5本（土日祝日4本）

② 馬場・十七条線

- (1) 運行所要時間 35分
- (2) 運行距離 13.8km
- (3) 停留所数 29ヶ所
- (4) 1日の運行便数 左回り6本（土日祝日5本）
右回り6本（土日祝日5本）

③ 十九条・古橋線

- (1) 運行所要時間 45分
- (2) 運行距離 17.7km
- (3) 停留所数 27ヶ所
- (4) 1日の運行便数 左回り5本（土日祝日4本）
右回り6本（土日祝日5本）

④ 牛牧・穂積線

- (1) 運行所要時間 41分
- (2) 運行距離 16.4km
- (3) 停留所数 27ヶ所

(4) 1日の運行便数 左回り 6本 (土日祝日 5本)
右回り 6本 (土日祝日 5本)